

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
北海道	札幌市立北郷小学校	目に見える「働き方改革」目に見えない「働きやすさ改革」 ～学校長の役割・関りを考える～	<p><研究の成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「働き方改革」が教育現場で盛んに話題に挙がるようになり、複数年が経過する中で、現在、本校においてもできる限りの「働き方改革」の取組が行われていると考える。 ・今年度、「目に見える働き方改革」から「目に見えない働きやすさ改革」という視点を大切にするようにした。それにより、本校の「学びの支援」の取組が精力的に進められ、学校として、よりよい組織的な取組が形作られてきた。 ・今年度、より積極的な校長の関わりについて、試行錯誤しながら進めてきた。そうすることにより、今まで以上に、校長自身の児童理解も深まり、本校の学校課題やその解決策について、常に具体をもって職員皆と話し合い深めていくことができた。
北海道	札幌市立幌南小学校	「子ども主語」を基軸とした学校創造 ～なりたい自分を思い描き、他者と共により良い自分を目指す子どもを育む授業研究～	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年4月から12月の期間において14本の各教科・領域の研究授業と研究討議を通して、「I(アイ)を磨く子ども」を築くための授業の在り方の具現について検討を重ねることができた。 ・研究討議においては、授業における子どもの姿(子どもの発言やノートにおける記述)を中心に討議を重ね、どのような教師の手立てや材の吟味が子どもの思考を加速させるために有効かを検討することができた。 ・令和6年2月8日(木)の第一次事前学習会兼紀要検討会において、助言者(校長・指導主事)や協同研究者から総論や各教科・領域の紀要、授業の在り方についてご助言をいただき、次年度行われる研究大会に向けての課題を顕在化することができた。 ・第一次事前学習会兼紀要検討会で挙げられた課題を整理し、授業改善に活かすことができるかが今後の課題である。
岩手	宮古市立宮古小学校	ふるさとの未来を担う「人づくり」の展開 ～「自分から」かかわり、学びを深める授業づくりを通して～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級づくりと授業づくりの充実に重点を置くことで、「自分から」学びを深める授業改善が効果的に進められた。 ・継続した研究と学期ごとのオリエンテーションの効果で、児童にも身に付けさせたい4つの資質・能力が浸透してきた。 ・授業研究会の教科を広げることで、教科を超えた有効な手立てに気付くことができた。 ・目指す児童像や「未来を担う『人づくり』宮小学習プログラム」をブラッシュアップできた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとの児童のふり返りの在り方を共通理解して、ふり返りを充実させ、身に付けさせたい4つの資質・能力への意識をより高めていく。 ・「未来を担う『人づくり』宮小学習プログラム」を教科に広げた視点でブラッシュアップし、資質・能力の育成により効果的な教育活動を見つけていく。
山形	天童市立成生小学校	資質・能力の育成を目指して ～それは子供を見取る教師の目の育成～	<p>研究成果(○)・今後の課題(◆)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本校独自の資質・能力系統表を今年度は6つの項目に絞ったことで、子供たちの活動や思考の変容を見取る視点がより焦点化された。 ○長期休業中に系統表の見直しも行われ、子供たちの実態と文言とのずれや、前後の学年との系統性などを修正することができ、より本校の子供たちに合った系統表を創り上げることができた。 ○個別最適な学びへの挑戦を行った。1単元の学びを子供に預ける「自由進度型学習」や、宿題を自分でマネジメントする「自己調整学習」など、『与えられる学び』から『自ら考え、選択し、伸ばしていく学び』へと変容させた。 ◆学びをより具体的に置き換えて考える必要性を学んだ。見方・考え方を働かせて得られた解や技能を日常の事象に置き換えてみたり、日常の場面で活用したりしてこそ本当の資質・能力といえる。学びの質を高める工夫を行っていきたい。
山形	鶴岡市立西郷小学校	職員との協働・共創による「育てたい資質・能力」へのアプローチ ～学びのスパイラルアップ及び心を育てる体験・活動を手がかりに～	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動の重点化や共同実践が活性化した。 ○資質・能力の達成状況も評価・分析しやすく、改善に向けた方向性も具体的でわかりやすいものにできた。 ○手段「学びのスパイラルアップ」及び「心を育てる体験・活動」を取り入れたことにより、具体的・関連的に展開しやすく、学校研究や日常実践との連動性、地域・家庭との協働実践が促された。 ○結果的に本校児童が苦手としてきた力(主体性、コミュニケーション力、表現力、リーダー性)を高めることができた。 ○研究を通じて「児童と職員は優れた学校を創る主人公」だから「自分たちの学校は自分たちで創る」べきという重要な気付きが得られた。

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
山形	川西町立川西中学校	学びをつなぎ、自己の成長を実感できる生徒の育成 ～振り返りの工夫を通して～	1 成果と課題 (1) 成果 ①振り返りを意識することで、「目標」「課題の与え方」について、どのように提示すると生徒自身が学びを振り返ることができるかを吟味することができた。 ②ロイロノートを用いて他の生徒の意見を見ることで、文章が苦手な生徒もそれを参考にして自分の意見をまとめることができていた。また、実際にクラスメイトを前にして発言するのに躊躇するような生徒でも自分の意見を発表するよい機会になっていた。 ③思考ツールを用いて自分の考えをまとめ、ICTを使って発表することを繰り返し行うことで、表現力(意見表明、プレゼンテーションなど)大きく向上した。 (2) 課題 ①振り返りは、毎時間行った方がよい面もある。学習カードや振り返りの仕方、時間の取り方を検討していく必要がある。 ②生徒の表現力(プレゼン力)のさらなる向上をめざした取り組みが必要である。 ③個の学びと協同的な学びの取り入れ方や生徒にあずけ考え、試行錯誤させる授業のあり方(ファシリテーターとしての教師のかかわり方)、適切な見取りと支援の在り方などの研究を進めていかなければならない。
福島	福島市立福島第三小学校	やわらかな感性で、しなやかに学び合う子どもの育成 ～9つの力を育む単元づくり(生活・総合・特支)～	○ 本校において設定した資質・能力の特色は、学習指導要領で示された「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の「三つの柱」について、本校教育目標の「知・徳・体」の視点からさらにそれぞれを分類し、「9つの力」に整理したという点である。 ○ 「9つの力」を育むための教師の在り方として、次の3点が見えてきた。 ① 子どもたちにとって「価値ある教材」と「出合わせる意図」を探りながら、教材との出会いを仕組むこと。 ② 単元展開を見据え、子どもの学びに寄り添い、見守る教師の構えをもつこと。 ③ 子どもの学びと学校生活や実生活を結びつける「人」を吟味し、単元において「人」とのかかわりを計画的に設定すること。 ○ 今後は、子どもたちに「多面的・多角的に考える力」をより一層育成することが必要。
福島	二本松市立小浜中学校	ともに学び高め合う生徒の育成 ～深い学びにつながる振り返りと支援の工夫～	教育現場の充実のために、吹奏楽部の楽器の整備を進めることができました。これまで十分に音が出せませんでしたが、改善しました。コンクールでの演奏が可能になり、より充実した発表につなげることができます。 また、本校でもICT活用による学校活動の充実を図っています。本助成により、ワイヤレスマイクとアダプタを購入いたしました。校庭や体育館での保健体育の授業や、学校全員で行う活動に使用しています。 行事が中断することなく、内容に集中して取り組むことができました。さらに、遠くまで大きな声を出さずに済み。感染症予防にも役立ちました。
茨城	古河市立三和中学校	持続可能な社会の創りに必要な資質・能力を育む学習指導の在り方 ～ESDの視点に立った授業改善を通して～	研究の成果 ・ESDの視点に立った授業改善を通して、生徒が必要な情報を選択し問いを立てたり、その解決法を見出したり、他者と協働しながら新しい価値を生み出していく場を意図的・計画的に取り組むことで、持続可能な社会の創りに必要な資質・能力が育成された。 ・自力解決後の比較検討場面において、ICTの即時性や共有性を活かした電子媒体による思考スキルに応じた思考ツールを活用し、思考を深めたり、結論を予想させたりする場を設定することで、帰納的に考える、類推的に考える、演繹的に考える習慣の定着につながった。
茨城	龍ヶ崎市立龍ヶ崎中学校	「関わる力」を身に付け、共に高め合う生徒の育成 生徒会活動を中心とした開校1年目の実践を通して～	【研究の成果】 生徒会を中心とした交流活動となる学校行事を設定し、生徒の交流を意図的に生み出すように企画・運営を図ることは、自ら進んでコミュニケーションをとり、相手の気持ちを考えた言動を身に付けることができ、生徒の「関わる力」を育てるために有効であった。 (1) 全校による交流集会「龍の集い」の企画・運営は、生徒が自ら進んでコミュニケーションをとることができるようになるために有効であった。 (2) 校歌制定プロジェクトによる交流活動の企画・運営は、生徒が自ら進んでコミュニケーションをとることができるようになるために有効であった。 (3) リーフレット運動による交流活動の企画・運営は、生徒が相手の気持ちを考えた言動を身に付けるために有効であった。 【今後の課題】 (1) より質の高い学校行事を実施するために、全教職員が参加して教科等横断的な視点で相互に連携を図る研修を行っていく必要がある。 (2) 今回の研究では、生徒が交流する場面を意図的に設定したが、生徒の中には自ら関わりをもつことが苦手な生徒も見られた。生徒同士が主体的に関わりをもてるようにするための手立てについて検証していきたい。
群馬	沼田市立利根中学校	ふるさとのよさに気付き、地域と協働しながら成長していく生徒の育成 ～「自己を磨き他に尽くす」協働活動を通して～	昨年度に引き続き、7000体以上のひな人形が並ぶ「老神温泉びっくりひな祭り」の開催前に1、2学年の実行委員が中心となって、生徒たちが飾り付けを手伝った。 12月から老神観光協会の萩原会長と実行委員が打合せをしたり、飾り付けのリハーサルをしたりしながら進めてきた。 当日は、地域の方々と協力しながら飾り付けができた。また、地域の方々にひな祭りを行う上でのやりがいなどを伺ったところ、「来場者の方々がひな祭りを観て驚きの声をあげているときは嬉しい。提供してくださった方々から喜びの声を聞いたときはやっぴりよかったと思う。」と話していただいた。昨年の反省を踏まえた協働活動となった。

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
群馬	群馬県立中央中等教育学校	国際社会に関心を持たせる体験型学習活動の提案 ～世界の課題を「探求」させる模擬国連の実践～	本校で実践している探究活動のひとつである模擬国連について、運営手法と成果を紹介する。模擬国連とは、生徒が振り分けられた32ヶ国の国連大使としてサミットに参加するというものである。生徒は各国の大使として、自国の国勢状況を徹底的に調べてあげ、設定された議題と論点に沿った資料を準備してサミットに臨み、自国の政策提言を行う。会議における発言場面や協議過程などにおいて、生徒は国際協調の難しさに気づき、国際的課題の解決策について考えると同時に、国際会議の進め方を学ぶなど、模擬国連への参加をとおして深い学びに繋げることができる。本研究は探究活動の実践例として模擬国連を紹介し、効果的な体験型学習活動を提案するものである。
埼玉	さいたま市立大東小学校	分かるできる喜びを味わい、自ら考え学び合う大東っ子の育成 ～ICTを活用して、基礎基本の定着を図り、考える力を育む授業づくり～	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度のアンケートにおいて、「算数の学習内容がよくわかる」という項目に肯定的な回答をした児童が81%だったのに対し、令和4年度に行った同様のアンケートでは、88%に向上した。 「計算」「文章」「図形」「表とグラフ」の4分野で問題を作成し、児童に取り組みさせた。昨年度と比較して今年度は、全校で22項目中(1年生は計算と文章のみ)、6項目では正答率が低下していたが、13項目で向上、3項目で変化なしという結果となった。学校全体として基礎的・基本的な知識・技能が身につけてきたと言える。 意識調査において、タブレットを使うことで算数の学習ができるようになったと感じる児童が85%に達しており、児童自身もICTの活用による学力の向上を実感している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用に慣れていないときは、時間がかかることもあるが、今後も粘り強く指導していく必要がある。
埼玉	川口市立並木小学校	運動の楽しさや喜びを味わい続ける児童の育成 ～思考力、判断力、表現力を高める体育授業を通して～	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「体育の授業は楽しいですか」の問いに対し、楽しいと感じている児童が95.3%と向上した。ほとんどの児童が、研究主題にある「運動の楽しさを味わう」ことができたと答えている。 新体力テスト、ABCDEによる5段階の総合評価において、A+B+Cの割合が一昨年度に比べ8%アップした。さらに、A+Bの割合は、11.4%アップし、コロナ禍で落ち込んだ体力がコロナ前の数値に近づくほど向上した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が感じる必要感と教師の指導内容(指導のねらい)との差異をどのように埋めていくか。 運動好感度と体力の両方を向上させる体育的諸活動の在り方、およびカリキュラムマネジメントをどのように進めていくか。
埼玉	戸田市立戸田第二小学校	つむぐ ～主体的に学び続け、他者と協働し、新たな価値を生み出すことができる児童の育成～	<p>□主要な研究成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オンラインによる授業・学習(ZOOM、ミーティング、クラスルームなどを使った授業・学習)で、自分の学びがより深くなったり、広まったりした。 ●「Google WorkSpace」(クラスルーム、グーグル・フォーム、ミーティング、サイト)の活用により、自分の学習活動の範囲が広がったり、効果的・効率的な活動ができたりするようになった。 ●T2 Self-Learning(自主学習)による取組では、教科書の内容を超えたり、幅広く学んだりすることができた。 ●総合的な学習の時間におけるプロジェクト活動では、身近な課題に関して、深く、広く学び、課題解決に向けた行動を起こすことができた。 ●(前の学年と比べて)ICTを活用する力は、高まっていると感じる。 ●ICTを活用することで、学びに対して意欲的になった。

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
埼玉	入間市立仏子小学校	「お茶×キャリア教育」で、地域を愛し、未来を切り拓く力を育む教育の推進	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域に愛着をもつ児童の育成 <p>アンケートでほとんどの児童が「入間市が好き」と答えていることから、様々な制限がある中でも、狭山茶等の地域の特色を生かした体験的な活動をできるだけ維持・改善したことによる成果が出たものと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ よりよい社会に貢献する力の育成 <p>地域とのつながりをもてる教育活動を意図的計画的に実施することで、異なる世代間のコミュニケーションが活性化され、社会形成能力等が身に付いた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の意見を生かした活動の改善 <p>いずれの活動も教師主導で行われたものが多いので、今後は児童らの振り返りや意見等を吸い上げ、児童自らの力で学ぶ実感を味わえる活動へとシフトしていく。</p>
埼玉	鶴ヶ島市立南小学校	自ら考え、判断し、行動できる子どもを育む防災教育・安全教育の推進 ～学級・家庭・地域との連携、協働を通して～	<p>子ども、保護者、教職員に反響があったのは、「普通救命救急講習」「着衣水泳」であり、机上の防災教育だけでなく、子どもが実際に体験、経験をすることで得られる効果を感じた。また、地域の防災訓練に保護者と児童で参加することも大きな意義があった。学級活動の中で、安全マップ作りを行ったり、実際に通学路探検を行うなどの安全教育を行うことも安全対策には不可欠であった。</p> <p>児童、教職員のアンケートの「学校は、登下校時の交通安全・不審者対策に関わる安全対策に取り組んでいる」という質問に、約76%が「そう思う」と回答した。まだまだ改善の余地のある結果であった。</p> <p>防災、安全についての正しい知識、度重なる訓練は継続して実施し、学校が核となり、家庭、地域との連携、協働をより強めていく。</p>
埼玉	秩父市立吉田小学校	運動好きな児童の育成 ～児童が運動の楽しさや喜びを味わえる実践を通して～	<p>研究主題の主要な研究成果</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育に関する意識調査を行うことにより、児童の実態を捉えた授業展開が行えるようになった。模擬授業や実技研修を通して、指導内容の焦点化を教師が意識できるようになった。 ・鉄棒月間やマラソン月間、なわとび月間など、全校で取り組む体育的活動の工夫により、子供たちが休み時間、互いに励まし教え合いながら運動に取り組む運動技能向上の成果があった。 ・教具や環境面を整備した結果、運動の生活化が図られ、子供たちが意欲的に運動に取り組む様子が見られるようになった。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「運動好きな児童」を育成し、結果として体力総合評価の割合をさらに向上させることが課題である。今後も体育授業の工夫改善に取り組み、児童の運動有能感を高めていく必要がある。 ・児童が運動遊びを工夫して、楽しみながら積極的に体力づくりに取り組み、「体を動かすことが好き」な児童がさらに増加するよう運動の生活化を図っていく。 ・心と体の健康づくりにおいて、意識は高まってきたが、望ましい態度や習慣が身に付いていない面もある。今後も家庭と連携して取り組んでいく。
埼玉	羽生市立新郷第二小学校	自らの学習意欲を高める児童の育成 ～子供たちの体力を向上させる取組を通して～	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「スモールステップのある教材づくり」を通して、児童自身が具体的に明確なめあてを設定・修正をすることができた。 ○ 「運動の成否が明確にわかる教材づくり」を通して、相手に対して「できたか、できなかったか」「どこがよかったか、よくなかったか」「どこをどうすればよくなるのか」を伝えることができるよう工夫したことで、合格の児童に良いポイントを伝えたり不合格の児童には、合格するためのアドバイスを伝えたりすることができた。また、試技を行った児童から聞き返す場面も見られた。 ○ 役割分担を行うことで、今、自分はどういう立場で、どんな言葉を発したらよいかを理解することができ、それが主体的・対話的な活動になり、深い学びにつながった。 △ アンケートでは、授業で学んだことを家や休み時間で練習する児童が多いため、教科外体育の充実を図り、授業以外でも運動に取り組ませるようにしていきたい。

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
埼玉	三郷市立幸房小学校	運動の楽しさ・喜びを仲間と分かち合える児童の育成 ～学び合う楽しさを味わえる授業づくりを通して～	<p>1 研究テーマ 運動の楽しさ・喜びを仲間と分かち合える児童の育成 ～学び合う楽しさを味わえる授業づくりを通して～</p> <p>2 研究の成果 ・本年度の研修課題を「運動の楽しさ・喜びを仲間と分かち合える児童の育成」として、学び合う楽しさを味わえる授業づくりを通して体力向上を図ることができた。 ・体育授業においては、高め、認め合う仲間づくりを行い、歓声の上がる授業を展開してきた。R5は新体力テストにおいて、A+B=78.7%達成(昨年度比+9.7%) ・体力向上だけでなく、気力の向上を図るため全ての活動において「何事にも全力で取り組み、気力あふれる児童の育成」を目指し全職員で取り組むことができた。 ・朝の5分間走、リズムダンス、行事等の実施に全力で取り組み、「学びに向かう力・人間性等」を育て、笑顔と気力あふれる児童を育てている。</p> <p>3 今後の課題 ・大規模校であり、若手教員が多く、研究成果を共有し実践することに困難がある。また、は運動場や体育館等の施設に制限があるため、安全との両立を図りつつ、効率よく児童の運動時間を確保しなければならない。さらに、教員によって授業力に差が出ないように共通理解し、授業や児童の姿に差が出ないようにしなければならない。 ・健康教育と関連を深め、丈夫で健康な体作りのための「早寝早起き朝ごはん」と休み時間の外遊びを奨励し、保健だより等で家庭と連携や啓発をすることで、健康な体作りを通して、心と体の基盤を作っていく必要がある。</p>
埼玉	三郷市立立花小学校	「わかった」「できた」を実感させる学習指導の充実 ～ICTのよさを生かし学び合う授業を通して～	<p>・教師が積極的にICT「学びポケット・ミライシードオクリンク・ムーブノート」等を活用し、児童が自分の思いや考えを表現できる「探究的・協働的・個別最適」な学びが深まる授業力の向上と児童のプレゼンテーション力、情報処理能力を高めることに繋がった。 ・タイピング検定を実施し、タブレット活用スキル年間計画表を基にしながら、児童のローマ字入力達成率92%(3学年以上)の技能向上に繋がった。 ・児童がプログラミングコンテストやプレゼンコンテストに挑戦することで、技能の向上と共に自信に繋がっている。 ・三郷工業技術高校との連携授業を年間3回実施し、mbotやMicrobit、scratchのプログラミング技能を高校生から直接アドバイスをもらいながら完成させることで、児童のプログラミング技術と学習意欲の向上を図ることができた。</p>
千葉	多古町立多古第一小学校	考える楽しみを味わう算数科学習の在り方 ～ICT機器を使った表現力の育成～	<p>【研究の成果】 ○ 自分で取り組む場面では、児童がそれぞれのタブレットで思考していることを、教師側のタブレットで把握することができ、授業を深めることに役立てることができた。 ○ 広げ深める場面において、児童がタブレットの画面を見せながら自分の考えを伝えたり電子黒板を使って全体に提示したりする発信力が身に付いた。 ○ 図形単元では、教科書のデジタルコンテンツが有効である。また、タブレットで思考したものをまとめる際に、ノートの代わりにプレゼンテーションソフトが活用できることが分かった。</p> <p>【今後の課題】 ○ 意欲面では伸びているが、ノートを活用した計算力に課題が見られる。タブレットを使う場面、ノートで技能面を高める場面を系統立てて指導していく必要がある。</p>
千葉	佐倉市立西志津中学校	佐倉型カリキュラムの推進 ～教職員の働き方改革と変化を恐れずに対応できる生徒の育成～	<p>成果と課題 ○ 佐倉型カリキュラムの推進により、16時30分最終下校と部活動の活動時間の確保はおおむね達成することができた。 ○ 下校時間が早まることにより、教職員に時間的ゆとりが生まれ退勤時間も早くなった。 ○ 生徒たちが直面する変化に対して様々な意見を出し、積極的に順応していこうとする姿勢が多くみられた。 ● 教職員の働き方を根本から見直し、ゆとりのある持続可能な働き方を今後も模索していく必要がある。 ● 生徒たちは与えられた変化に対応する力を見せている。今後は、課題に対して自ら変化を作っていく姿勢が求められる。</p>

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
千葉	野田市立宮崎小学校	自分のよさに会える学校づくり ～自己肯定感を育む場の工夫～	全児童が「自分のよさ」に自覚するために、自己肯定感を育てる取組(国語科の授業改善、ICT・放課後を活用した個別学習、ほめ言葉の花、宮松賞の授与、1日10分間読書、リモート交流授業など)を行った。 (成果) (1)「自分によいところがある。」と答えた児童が94.3%になった。 (2)学力低位の児童の自己肯定感が向上した。 (3)読書習慣が向上した。「1日10分」の実施が「週に4、44日」となった。 (4)リモート交流授業で、他校と繋がり学ぶ体験をした (課題) 「自分によいところがある」の回答を100%にしたい。成果を分析し実態を捉え直して、さらに新しい手立てを講じていきたい。
千葉	茂原市立萩原小学校	「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくり ～じっくり考え、表現する力を高める指導の工夫～	○タブレット端末を活用する場面を精査した授業は、児童の思考を深めたり、広げたりすること、表現や技能を高めることに効果的であった。 ○低・中・高学年別に「発表の仕方」「聞き方名人」「話し方名人」の掲示物を作成することで、発表したり友達の話の聞いたりする際に、手がかりとすることができた。 ○今年度は、教科等横断的に思考力、表現力を高める効果的な指導の在り方についての研究を進めたが、今後さらにさまざまな教科において授業実践を通して成果と課題を明らかにし、研究の幅を広げていきたい。
千葉	市原市小中一貫教育校加茂学園	これからのグローバル時代に生きるコミュニケーションを図る資質・能力を身に付けた生徒の育成	主要な研究成果 ○ 生徒のコミュニケーションに対する意識が高まった。他者に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度が養われつつある。今後も取組を継続していくとともに地域や家庭に対して学校での取組をより積極的に発信していく必要がある。 ○ 英語によるコミュニケーションを図る資質・能力が身に付きつつある。授業外での学校生活の中で、自然と英語が飛び交う雰囲気が出来つつある。英語に対する抵抗感を感じる生徒が減り、英語の音声に自然と慣れ親しんでいる。 ○ より質の高い外国語活動・外国語科、及びGC科の授業づくりのために、今後も継続して、ALTと英語科教師が中心となり、全職員が協力して言語活動の充実を図っていかねばならない。
千葉	千葉市立新宿中学校	「指導と評価の一体化」に資する持続可能な学習指導改善の方法 ～週案を活用した教師のメタ認知力の向上～	本研究を令和4年度、5年度の2年間にわたり継続して行ってきた主な研究成果は、①自ら設定した「主体的・対話的で深い学び」への具体的な手立てに対して常に意識し、振り返りを行う教員が増えた。②ICT活用推進の必要性を理解し、活用場面が増えた。③教科横断的な研修の有効性を理解し、他教科の実践から学ぶ事に意欲的になり、指導の視野が広がった。それにより、教科の垣根が低くなり教科を超えた学び合いが行えた。④生徒からの学校評価アンケートにおいて8割強の項目で大きくプラスとなった。そして、教員の多忙解消と働き方改革が進む中で、研究は「お荷物」とされがちだが、研究主任や教務主任を中心として、無理なく・同じ歩調で協働的に進められ、次年度検討会議においてこれらが整理され、研究指定を終えた次年度にも引き継がれていることが何よりの成果であった。
千葉	千葉県立柏井高等学校	非英語圏の国との交流と国際理解教育の推進 ～高校における韓国語学習から韓国の学校との交流へ～	○成果 ・食文化や伝統文化の体験を加えることで韓国語の背景をイメージすることができ、学習意欲が向上した。 ・韓国語のスピーチ大会やダンス大会に参加することで、自分をよりうまく表現しようという主体的な学びの姿勢が身に付いた。 ・オンライン交流、相手校の日本訪問、本校の韓国訪問と、高校生同士の生きた交流で異文化理解への意欲が高まった。 ●課題 ・韓国語担当者の異動後も、国際理解教育を推進していく人材の確保が重要である。 ・一部職員だけでなく、学校全体で姉妹校交流を継続していくことが大切である。 ・韓国語学習で国際理解教育を推進する国際コミュニケーションコースの魅力を積極的に外部へ発信し、認知度をさらに高める必要がある。

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
東京	狛江市立狛江第三小学校	地域を知り、地域と共に歩む子の育成 ～多摩川の学習を通して～	<p>①「多摩川」をテーマに取り組んだことで、地域を題材にした教材開発ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年で、年間を見通した計画的な指導ができ、次年度の計画にも生きている。 ・ 教員も多摩川や地域のよさを知ることができ、指導の幅が広がった。 ・ 地域、CS、おやじの会、保護者など、地域との連携・人材活用が充実した。 <p>②単元の流れや学習形態の工夫が図れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的な学習の時間の単元開発を通して、PDCAサイクル、調べ学習の流れなどの理解が深まり、児童にとっても効果的な学習が展開できた。 ・ 自分の「問い」をもつ児童の姿を大切に活動したことで、児童同士の活発な交流が見られた。 ・ タブレット端末の有効的な活用方法も検証できた。
東京	日野市立日野第六小学校	自分の思いを豊かに伝えるための深い学びを実現する児童の育成 ～chromebookの効果的な活用を通して～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館を活用した授業実践を積み重ね、学校図書館司書との役割分担を明確にし、授業に必要な資料を考え、探究的な学びに向かう授業を構成することができた。 ・ 本を活用して自ら進んで調べ学習を行う児童の姿が多く見られるようになった。児童も教師も、探究学習の際に学校図書館を利用することが有効であることを理解し、学校図書館や学校図書館司書を積極的に活用するようになった。 ・ 学習の際に学校図書館司書との関りを増やしたことで、児童にとって学校図書館司書の存在がより身近になり、学習や学習外でも児童が学校図書館司書に相談をする姿が増えた。
東京	新宿区立柏木小学校	都会だからこそ「農」から学ぶ学習 ～失敗から学ぶ農業～	<p>研究の生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ○延べ数で500人を超える子供と大人が、野菜作りの活動にかかわった。 ○栽培と収穫を体験することで、食べられない野菜が食べられるようになったり、野菜自体に関心を示す子どもが増えた。 ○地域の祭りに出品して、野菜を役立てる活動を通して、地元の人たちと、野菜作りに携わる子どもたちの交流が生まれた。現在では、各町内会長をはじめ、様々な方から関心を寄せていただいている。 ○地域の広報誌や大手新聞、テレビニュース、ラジオ等に度々取り上げられ、子どもたちにも刺激となった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農地を維持し、また野菜を多数、大量に栽培していくためには、それなりの資金が必要となってくる。それをどのように工面していくかが、最も大きな悩みである。 ○屋上であるがゆえに、管理の難しさと、継続の難しさの両面で頭を悩ませている。当面は、何人かを中心に畑を維持する方向で進めているが、過去の経験から、将来的には元の何もない屋上に戻す必要が生じる。
東京	板橋区立志村小学校	主体的に問題解決する児童の育成 ～見通す力・吟味する力を育てる自由進度学習指導～	<p>【成果と今後の課題】</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童に自分の課題(学習内容の理解度等)に応じて、学び方を自己調整しながら学習に取り組ませることで、学びに対する主体性が生まれ、児童の学びに向かう力が高まった。 ○1単元を終えるまでに必要とする指導時間が大幅に短縮した。余剰時間を発展的指導や補充的な指導等に当てることができた。 ○通常の授業より支援が必要な児童に対して個に応じた指導を丁寧に行うことができた。その結果、児童の基礎的基本的な学力の定着と学習意欲の向上につなげることができた。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自由進度学習の効果検証を定期的に行い、授業改善を図る。 ●児童一人一人の学習状況の見取り方(評価)や支援の仕方を工夫する必要がある。

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
東京	八王子市立由井第一小学校	学力の土台づくり ～伝えようとする児童、分かってほしい児童を育てる国語科「話すこと・聞くこと」の指導～	①「話す・聞く」の指導の系統的な指導 ・「聴くときのあいいうえお」「あいづちのあいいうえお」「話すときのかきくけこ」を、常時掲示することで、各教科、教科外の活動における話す・聞く場面で、児童が意識できるようになった。 ・学年の発達段階に応じた、授業中の対話の時間の設定（「対話タイム」「ペアトーク」「スピーチタイム」等）を取り入れることで、友達の話を意識して聞いたり、自分の考えを相手に伝えたりすることを楽しむ児童が増えた。②「思考力・判断力・表現力」の育成 ・テーブルシートを使った話し合いの場を設定することで、視点をそらさず、話し合いをすることができる異様になった。 ・「聞くための質問」をあらかじめ提示しておくことで、話し合いの中で自分との相違点を考えながら聞けるようになってきた。 ②語彙力の育成 ・国語辞典を活用する時間を設けることで、言葉や難しい言葉を調べる習慣が身に付いた。 ・1対1での少人数での対話の時間を設定したり、原稿を見ないで話したりする場を意図的に設定することで、友達の話を中心して聞いたり、自分の話すことをまとめながら話すことができるようになった。
東京	練馬区立高松小学校	児童と教員の主体性を引き出す校内研究	1 成果 (1) 児童 ① 主体的に考える児童の割合が増えた。 ② 高学年を中心に発言量や意見文の文字数が増えた。 ③ さまざまな切り口から考えようとする児童が増えた。 (2) 教員 ① 授業や教材を、研究主題に引き寄せて考えるようになった。 ② 授業中、児童に委ね、待つことができる教員が増えた。 2 課題 (1) 児童 ① 学力面で課題のある児童への課題の提示とステップの組み方が難しい。 ② 作業時間などの個人差をどのように調整していくべきか。 (2) 教員 ① 児童に委ねられない教員の意識改革が必要である。 ② 教員の授業力によって児童の成長に大きな差が出てしまう。 (次年度、引き続き同じテーマで研究を進め、課題の解消を目指す。)
東京	大田区立多摩川小学校	自分の言葉で伝え、チャレンジする児童の育成 ～児童同士が認め合う体育学習～	成果・課題 ○取り組みにより、児童が新田商店街を訪れる機会も多くなり、主体的に関わろうとする意識が高まった。 ○商店街の皆さんが何を求めているかを探求し、課題解決に向けて情報を集め、取り組むことができた。 ○児童の取り組みがきっかけで、商店街も再生に向けてイベントなどの企画が始まった。
神奈川	横須賀市立田戸小学校	地域教材を生かした主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり ～生活科・社会科・総合的な学習の時間を通して～	【研究の成果】 ・今回のテーマでの校内研究は2022年度で終了したが、積み重ねた地域教材を活用した授業を、2023年度も生活科・社会科・総合的な学習の時間を中心に展開できた。 ・地域教材を積極的に活用する中で、子どもたちの強い関心を引き出すこと、問題意識を生み出すことにつながる学習を構築することができた。 ・子どもたちの直接経験や生活実感に沿って、思考や追求活動を組み立てることで、子どもたちの地域への関心が高まることが感じられ、地域教材のよさが再確認できた。 【今後の課題】 ・地域教材を活用した学習を、カリキュラムに位置づける必要がある。何を、どの場面で活用したかを蓄積し、情報を引き継いでいけるシステムを構築していきたい。
神奈川	川崎市立稗原小学校	院内学級の学びと育ち ～病気やけがに負けない 心豊かで力強い子どもの育成～	長期の入院治療生活を余儀なくされる子どもたちにとって、院内学級は単なる学習の場のみならず、心の拠り所であり社会性を育む場、人間関係育成の場といえる。従前ながら院内学級では、子どもたち一人一人と寄り添いながら学級でのよりよい生活を展開することが求められる。その具現を目指すためにリモート等で定期的に管理職や教育委員会が職員会に参加し、喫緊の課題等について把握に努めている。そこで出された課題については、年2回行われる院内学級運営委員会(校長、担任、教育委員会、特別支援教育センター、病院長、看護師長、事務部)にて確認し、次の実践への足掛かりとしている。 子どもたちの実態は正に十人十色。全ての子どもたちに寄り添い、一人一人が夢をもてる豊かな活動の構築を今後も目指していきたい。

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
神奈川県	小田原市立富水小学校	主体的・対話的で深い学びを実現をめざして ～気付き合い深め合う学習～	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項を児童が活用できるように、掲示物の作成や学習の様子動画撮影等を行った。また、前時までのノートの記録を見返すことの大切さを指導してきた。その結果、既習事項をもとに自分の考えを持つことにつながっていった。 児童の実態に応じて、グループ活動や全体での意見交流、ロールプレイなどを取り入れることにより、相手意識をもって伝えたり受け止めたりする姿が見られるようになった。また、ICTの活用により、図の操作や実験の様子を見ながら話し合う工夫は児童の対話を促すことにつながった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 目的意識を持った意見交流となるように、指導の工夫を継続していく必要がある。
神奈川県	南足柄市立向田小学校	よりよい未来の創造に向けた「変革を起こす力のあるコンピテンシー」を身につける学校の実現 ～「エージェンシー」を視点として～	<p><研究主題の主要な研究成果></p> <p>子どもの「エージェンシー」の育成を、学校教育の目標と明確に位置付け、教職員と児童、さらには保護者・地域と共有しながら実践を展開した結果、子どもたちに次の2点の変容が見られた</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども自らが「自分たちの学校をよりよく変えていきたい」と考える姿が見られるようになった。 「自分たちが行動を起こすことで状況を変えることができる」と気づいた子どもの行動は、自信に満ちてきている。 <p>このような子どもの姿の変容から、次の2点を教職員で再確認できた</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校は、子どもたちがよりよい未来を創造するための力を育む場所であり、その目標実現に向けすべての教育活動が意図的に行われる必要がある 子どもたちは、教育・支援の対象ではなく、よりよい学校づくりを行っていく当事者であり、その実現のための可能性を秘めている。
神奈川県	葉山町立一色小学校	仲間とともに主体的に学び続ける児童の育成 ～主体的・対話的で深い学びの実現をめざして～	<p>2年間、「特別の教科 道徳」の授業について校内研究として取り組んだ。「考え、議論する」道徳の授業の実現、特に「物事を多面的・多角的に考える」授業方法の工夫に重点を置いた。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「手立て表」を1つのツールとして活用したことで、授業づくりがスムーズにできるようになった。 同じ視点を持って研究授業を参観でき、授業後の研究協議において協議の柱が明確になり、研究の深まりが見られた。 道徳の研究は2年間で終わりとなったが、経験の浅い教員も道徳の授業に自信をもって取り組む様子が見られる。 児童の人間理解や他者理解をより深めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業を考えるツールや視点は、多種多様である。校内研究としての取組は終了となったが、様々な授業のあり方について今後も研鑽に努める必要がある。
神奈川県	横須賀市立長沢中学校	深く考え行動する生徒の育成を目指して ～「生徒」が主体的・対話的で深い学びに取り組む授業づくりとプロジェクトNの活動を通して～	<p>主要な研究成果</p> <p>【研究内容】</p> <p>「深く考え行動する生徒」を育成するために、2つの柱(①長沢スタンダードの完成を学力向上につなげ、長沢スタンダードの授業を通じて、自分たちで創る授業を目指す。②プロジェクトN～話し合い活動を通じて、豊かな学校生活について考える～をテーマにして、自分たちで創る学校について考えていく。)をもとに、研究を進めた。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体となった授業を展開し、様々な考えを参考にしながら、自身の考えを再構築することが出来るようになった。 話し合い活動を通して、未来の学校像についても、生徒自身が自分事として考えることにより、活発な意見交流をすることができた。 様々なことにチャレンジした結果、自己肯定感の高まりや自信につながり、「生きる力」が着実に身についている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の終末でどのような生徒になってほしいかを明確にすることで、指導と評価の一体化を図る学習評価につながる。見方・考え方を働かせながら取り組む「単元を見通した指導」の工夫を踏まえた、更なる授業改善の実施。 今後の教員の異動が続く中、「深く考え行動する生徒」の育成を継続していくには、授業研究もプロジェクトNも学校行事も日常生活も従前の取組を反省し、持続可能な学校の実現につながるカリキュラムマネジメントの実施と改善が必要。

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
神奈川	大和市立光丘中学校	新学習指導要領における評価について	<p>(1)今年度のまとめ 教育実践研究として、防災に関係する内容を中心に学年ごとや学年全体で取り組んだ。具体的な実践内容としては、校内では火災避難訓練、全市一斉引き渡し訓練、グラリ3分一斉行動訓練、大和市防災マップを使用した防災学習等を行った。また地域で行う防災訓練や光丘中学校を会場とする避難所運営会議や多文化共生防災訓練等にも参加した。7月に行ったアンケートの結果からも生徒の防災に対する意識は低くないことは分かった。1月に起きた大規模地震によって、より身近なことであると危機感も感じ、防災教育への関心もより高まっている状況が考えられる。助成金については、校内で話し合い正確な時刻確認のため時計の設置場所を校内で増やすため電波掛時計の購入、生徒指導上で必要と思われる書籍、学習上必要とされるマグネットスクリーンなどを購入させていただいた。</p> <p>(2)次年度に向けて 今後も防災教育を生徒に対して行うために、教育側の意識や知識を高めることも改めて重要であると確認できた。緊急時に的確に判断して主体的に行動することや、地域の防災活動等で助け合えるように学習していくことを意識して、生徒と教員が共に学習に取り組んでいくことが必要である。防災について生徒や地域の方と関わる中で、教員と生徒、生徒と地域など様々な関わりが考えられる。緊急時に向けてそのつながりをより広げることも考えながら、次年度については防災学習を進めるとともに、防災への知識や能力を活かすための人と人との関わりの部分についても積極的に学ぶ方向で考えていきたい。</p>
神奈川	横浜市立生麦中学校	<p>「生きる力」を育む学校図書館教育の推進 ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた情報活用能力の育成と豊かな心を育む読書生活の確立～</p>	<p>【研究成果と課題】 ○…成果、■…課題 ○ 教育課程の中に、情報活用能力・読書指導に関する資質・能力を、どの単元(学習)で重点的に育てるのかを位置づけ、全校体制で取組を推進する体制ができたことにより、職員一人ひとりの学校図書館への理解が向上した。 ○ 校内だけではなく、教育振興会(保護者)や地域の方々のボランティアによる、本校への活動参画により、読書教育に対する理解が深まり、家庭・地域との連携の、まさに一歩を踏み出すことができた。 ■ 各種の統計資料や新聞については、学校司書に依頼し、学校図書館内に整理し、環境を整えた。視聴覚教材や教育機器等の教材・教具、いわゆるICTの活用は環境整備の面が不十分であり、今後の課題としたい。 ■ 横浜モデル「読書活動を通して育成を目指す資質・能力」体系表の項目を、日頃の読書教育の活動に落とし込むことは、まだ中途の段階である。現状からの伸長が現段階での、計画・活動の基準になってしまっている。実態把握をしっかりと行っただけで、読書活動の中に位置づけていくことが課題である。</p>
新潟	新潟市立上所小学校	<p>学びを生かす子どもの育成 ～情報活用能力を育む授業づくり～</p>	<p>授業で目指すところは、児童に教科の資質・能力を育むことであり、深い学びを実現することである。その中で、授業者が何を情報として捉え、その情報をどのように結び付けたり、取捨選択したりして整理させるかを考えて授業を行っていくことが大切である。また、その際に「考えるための技法」を意識した働き掛けが有効であることが分かった。今後は、様々な教科や単元において、実践を行い、児童にどのくらい情報活用能力がついたかどうかを、児童と教師へのアンケート結果を基に、数値でも検証していきたい。</p>
新潟	阿賀野市立安田小学校	<p>自分の考えをもち、対話的な学びを通して考えを深める子どもの育成</p>	<p>対話的な学習場面に焦点を当て、国語、算数、図画工作、道徳といった様々な教科・領域で授業実践を行った。成果として、対話を位置づける場合には「見通し」「課題解決」「まとめ・振り返り」の3つがあり、それぞれの対話の形態は対話の目的と大きく関わっていること、対話の目的を達成するためには教師の指示の出し方や対話を活性化させるための手立てが大切であることが明らかになった。道徳化の授業実践では、スケールを用いてそれぞれの立場を明確にすることで児童同士の対話の活性化につながった。一方、対話場面を設定するだけでは児童の考えは深まらず、学びを深めていくためには、対話したいという思いを高める状況をつくる手立てや対話場面での教師の働き掛けが必要であることが分かった。</p>

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
新潟	妙高市立妙高中学校	生徒が主体的に学び合う課題設定と授業展開の工夫 ～課題から数理としての本質を見いだす数学的な読解力を鍛えるために～	<p>【主要な研究成果】 本研究を通して、以下のことを確認することができた。</p> <p>①生徒の意欲を高め、単元の本質に迫る課題設定の工夫 生徒の興味を引く課題設定が、生徒の主体的な学びを引き出すとともに、学ぶ意欲の持続につながることを確認できた。</p> <p>②生徒の疑問や質問から始まる深い学び 生徒の疑問や質問は、そのまま生徒に投げ返すことで、生徒同士の対話を促し、思考の深まりや自立的なグループ活動につながることを確認できた。</p> <p>③学びにおける思考の言語化 自身の発見や他者の発言・考え方からの気づきを自分の言葉でまとめる。学びを言語化することで、思考や知識が整理され、納得や達成感につながることを確認できた。</p> <p>④友達に遠慮なく聞ける学習環境づくり 課題解決や深い学びには、他者の何気ない疑問や発言が問題の本質に近づく視点になることがある。協働で意見交換がしやすい学習環境づくりを日頃から行う必要がある。</p>
新潟	小千谷市立小千谷中学校	様々なものの「見方・考え方」をはたらかせ、社会に対する関心を深める生徒の育成 ～全校を挙げた新聞活用教育(NIE)を通して～	<p>【主要な研究成果】</p> <p>1 社会に対する関心を深める姿が見られたこと 全国学調質問紙調査の設問番号33「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」への肯定的な回答の割合が、78.0%(R3)、84.3%(R4)と向上した(全国平均=R5が63.9%)</p> <p>2 様々な価値観や考え方に触れ、様々なものの「見方・考え方」をはたらかせる姿が見られたこと 本校で独自に実施している授業アンケートの設問「授業で新聞記事を読んだり、他の人の意見や考えを聞いたりすることが、自分の考えをもう一度検討し直したり、振り返ったりするきっかけになったか。」への肯定的な回答の割合が、84.2%(R3)、90.6%(R4)と向上した。</p>
長野	長野県安曇養護学校	将来の豊かな生活に向けて ～キャリア教育の充実～	<p>【成果】 ・児童生徒の姿から授業や支援を見直し、それを研究授業や研究会、研究通信を活用して全校で共有することで、授業や支援の改善を図ることができた。「キャリア教育」という同じものさしで教育のあり方を考え、支援や授業を改善していくことは、研究テーマである「児童生徒の将来の豊かな生活」につながっていくことが、全職員で共有された。 ・「キャリア教育」の視点から教育活動を見直したり、卒業後の姿から教育のあり方を考えたりすることで、各部でどんな力を付けることが必要か、どんな教育課程を組んでいくことが部のつながりを意識する上で大切かを検討するきっかけとなった。</p> <p>【課題】 ・重度重複障害のある児童生徒も含め、一人一人の児童生徒にとっての「キャリア教育」や「将来の豊かな生活」について、更に具体的に考えていく必要がある。</p>
長野	塩尻市立吉田小学校	姿勢指導のこころみ ～子どもの意識を高めるために～	<p><成果> ・姿勢のポスターをクラスに配布し、視覚的に正しい姿勢を確認できるようにしたことで、以前より授業中の姿勢が良くなってきている。 ・悪い姿勢は自分の体に影響が出るとを学習したことで、正しい姿勢を意識できるようになってきた。 ・片足の運動は低学年を中心に、子どもが主体となって日課として継続して行っている。運動を行ったことで、片足立ちの持続時間が伸びてきた。</p> <p><課題> ・昨年3月に行った担任対象の調査では、高学年で運動がほとんど行われていないクラスがあったが、子どもへ運動の意味を説明し、意欲をもたせて取り組むことができるようにしたい。 ・片足立ちのタイム測定が1回だけでは、たまたまバランスとれずタイムが伸びない児童もいた。正確な片足立ちのタイム測定の仕方には工夫が必要である。</p>

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
静岡	菊川市立菊川東中学校	自己有用感と愛校心を育む特別支援教育の実践 ～ものづくり体験を通して自己有用感を育む特別支援教育～	<p>1 称揚のボイスシャワーと躍動賞(学校賞)の成果</p> <p>(1)生徒アンケート結果から、生徒の自己有用感が向上した。</p> <p>(2)学習面・生活面、人間関係など、学校生活で好影響をあたえた。</p> <p>(3)教師と生徒の信頼関係の構築に繋がった。</p> <p>(4)長所を認める雰囲気づくりに繋がった。</p> <p>(5)躍動賞(学校賞)の受賞者が69人となった。(12月末現在)</p> <p>ア「自ら気づき→行動する」 →88.2%(1.2%向上)</p> <p>イ「わたしには良いところがある」 →92.3%(4.4%向上)</p> <p>ウ「わたしは誰かの役に立っている」 →89.5%(4.5%向上)</p> <p>エ「信頼できる教師がいる」 →89.8%</p> <p>オ「自身の資質能力が向上した(教職員)」 →92%</p> <p>カ「自分らしさを発揮できる職場である」 →90%</p> <p>2 ものづくり体験の成果</p> <p>(1)木材加工、花園・野菜づくりは、協働的な活動となった。</p> <p>(2)ボランティアさんなど、多様な他者と関わることができた。</p> <p>(3)「自己有用感」と「愛校心」の獲得へ繋がる実践になった。</p> <p>(4)オブジェ展で、「銀賞」を受賞し、自信を深めた。</p> <p>(5)オブジェ展の出展は、生徒と保護者が喜びを共有できた。</p> <p>3 今後の課題</p> <p>(1)福祉的な機能を備えた教育環境を実現する。</p> <p>(2)個別の課題に対応できる学校組織を確立する。</p> <p>(3)生徒の可能性を伸ばす授業改善を推進する。</p> <p>(4)多様なニーズに対応できるように地域の人材を活用する。</p> <p>(5)ICTの活用した協働的な学びを実現する。</p>
静岡	浜松市立積志中学校	命を守るために効果的な避難訓練の取組	<p>(1)防災担当はいろいろな想定の中での避難訓練を起案する。</p> <p>・震度6～7程度の大規模地震の発生と火災による避難訓練</p> <p>煙を階段・廊下に充満させ、防火扉を閉め、障害物を置き、通常の避難経路が使えない想定</p> <p>・体験型避難訓練(スモークハウス体験、救助袋降下訓練、起震車体験)</p> <p>・予告なしの避難訓練(津波発生、河川氾濫の想定)</p> <p>(2)教員は避難訓練に必要な知識をしっかりと持つ。</p> <p>防火扉が閉まった後の行動。落下物の対処。煙の対処。救助袋の使い方。教員の指示の出し方。</p> <p>(3)その他(今後)</p> <p>PDCAサイクルを導入し、どういう設定の避難訓練にするか、指示を出す生徒を誰にするか等、実態にあった形に方法を変化させていく。実施後、みんなが助かるためにはどうすればよいか話し合う。</p>
静岡	静岡市立安倍口小学校	地域に愛される学校を目指して ～CSを核とした地域との協働体制づくりを通して～	<p>【研究の成果】</p> <p>①地域、保護者、職員が同じ方向を目指すことができた</p> <p>「一緒に」をキーワードとして活動することにより、活動に関わるみんなが当事者意識を持ち取り組むことができた。一方通行ではなく双方向で活動できたので、地域、保護者、職員が充実感を持つことができた。</p> <p>②ひらかれた学校になることにより、地域に愛されるようになった</p> <p>毎週月曜日にボランティア活動をしていただいた事により、地域の方のコミュニケーションの場にもなった。空き教室を地域の方に開放したことにより、地域の方に活用され学校に関わる方が増えた。</p>
愛知	犬山市立東部中学校	生きて働く力を育む生徒の育成 ～考えをひろげ、深め合う活動を通して～	<p>・研究委嘱を受け、全職員で研究を進めてきた。授業の際に生徒が考えや思いを伝え合う姿や発言やふり返りなどの記述の内容から、多くの生徒が協同的に学び、自己の学び方について意識することができてきていた。</p> <p>・生徒が主体的に学び続けられるよう、手だてや授業の構成の工夫が必要である。個別最適な学習を実現し、自らの課題に対して意欲的に向き合い、課題の解決に向けて仲間と協力しながら、最適解にたどり着くことができるよう、ファシリテーターとしての教師の役割を意識する必要がある。</p> <p>・生徒が中学校を卒業して社会に出た際に、『生きて働く力』を発揮することができるよう、東部中学校の全職員で切磋琢磨しながら研鑽していきたい。</p>

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
愛知	岡崎市立南中学校	豊かで幸せな未来を切り拓く生徒の育成 ～実技教科におけるICTの活用と自立的、協働的な学びの観点から～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用によって、例えば音楽の授業では「ボーカロイド教育版」「スクールタクト」を利用し、生徒は主体的に創作活動に取り組むことができた。 最新技術として注目度の高いChatGPTについて生徒が議論し評価したことは、これからよりよい生活や持続可能な社会を作っていくための素地を育む上で有効だった。 学びの場を意図的に設定すれば、全ての生徒がプログラミングを駆使してチャットツールを完成させることができた。 生徒にとって身近な課題を見出し話し合うことで、生徒が「自分たちでよりよいもの作り出そう」と考え、自立的・協働的に学ぶことにつなげることができた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用によって得た「見方・考え方」を、他の分野でも活かしていく授業を目指したい。
愛知	江南市立藤里小学校	未来を拓く藤里小の学び ～1人1台端末の活用を通して～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> Chromebookを活用し、協働的な学習の充実を図ることにより、児童が互いのよさを認め合える人間関係を築く力を付けていくことができると分かった。 個別の学習の充実を図ることにより、自分に合った学び方を選択していこうとする児童の姿が見られるようになってきた。 どのようにChromebookを活用していくと効果的に活用できるか、活用のねらいや活用の場面を把握することができた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの児童が授業の中で達成感を味わうことができるようになってきているが、私たちが目指しているのは、「全ての児童」である。一人一人の児童をよく見て、よく知り、一人一人の児童に合った学びを実現することで、全ての児童が分かる喜びと仲間と学ぶ楽しさを感じられるよう研鑽を積んでいきたい。
愛知	北名古屋市立西春小学校	言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し、適切に表現できる子の育成 ～言語活動を中心とした国語科指導の充実を通して～	<p>【主要な研究成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語の授業を①課題のたしかめ→②もくもくタイム→③わいわいタイム→学びのまとめ→ふりかえり、と組み立て、言葉の意味や働きについて深く考えさせ、伝え合う学習を重ねることより、よりよい表現を求めて主体的に学び続けようとするこの姿が見られるようになった。 ポイトレや語彙トレ、書きトレなどの言葉の基礎となるトレーニングを授業の始めに取り入れることにより、言葉により自分の考えや思いを伝えることに喜びを感じ、生き生きと表現することができる子を育成することができた。 学習のマナーや伝え合うための言葉を身に付けさせることで、学びを支え合う学習集団の育成を図ったり、豊かな言語感覚・言語意識を育成する環境をつくることで言葉のもつ意味や働きに着目する習慣をつけさせたりすることができた。
愛知	豊川市立金屋小学校	守ろうぼくらの桜 伝えよう私の思い ～ねばり強く取り組み、ともに学び喜びを味わう子をめざして～	<p>【研究の成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校に隣接する桜並木が悲しい歴史の証人であり、地域の財産であることを学び、地域の財産であることを学び、地域の一員として守っていこうとする気持ちを培う活動を行った。 植栽から75年が経ち、高齢化を迎え、目の高さまでしだれてきている枝や枯死して落下する幹を整理したり掃除したりした。桜の根元に季節の花を植えて訪れる人の憩いの場づくりを旨とした。 ペアあるいはグループで活動することで、年長者は思いやりや優しさを発揮しながら年少者に接し、防災・減災を念頭におきながら安全に楽しめる桜並木づくりをねばり強くリードした。年少者はメンターとなる先輩を見ながら、桜の世話の実際を通してさまざまなHOW TOを身につけ、仲間と一緒に活動する喜びを味わうことができた。
兵庫	神戸市立兵庫中学校北分校	夜間中学校における特別の教育課程 ～やさしい日本語での授業実践と関係機関との連携～	<ul style="list-style-type: none"> ○渡り間もない外国籍生徒に対し、初歩となる「ひらがな」や「漢字」の教材を使用する授業を行うことで、日本語学習のスタートをさせることができた。 ○やさしい日本語を用い、日本で生活するうえで必要不可欠な防災学習を行い、「あんしんライト」を作成することで、防災意識を高めることができた。 ○外国籍生徒が日本で生活するうえで不安要素の一つとなる在留資格の知識を、講師を招いて研修を行うことで、職員の意識向上に役立った。 ○中国籍やネパール籍の生徒が中学校生活や高校進学に向けて抱えている不安を少しでも解消するために、通訳してもらいながら教育相談を行うことで精神的安定につなげた。 ○各方面で行われている「外国にルーツを持つ人たちを支援」する団体主催の研究会に職員が参加し、情報交換、情報交流することができた。

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
兵庫	赤穂市立赤穂西小学校	自他を認め、共に高め合おうとする児童の育成 ～居場所づくりと授業づくりを通して～	信頼性と妥当性が確認されている自尊感情測定尺度を活用し児童の実態調査を行い、結果を統計処理にかけることで、学校の課題をより精緻化して捉えることができた。 「あなたはいるだけで素晴らしい」と伝える『ありがとうカード』、「努力していたことや成長したこと」を伝える『いいねカード』を渡す取組を全校で行い、児童の居場所づくりを進めることができた。また、保護者や地域の方にも取組を広げることで、家庭や地域と連携した居場所づくりの段階にステップアップすることができた。 「自分で深めタイム・みんなで深めタイム・みんなのおかげで深まりタイム」の3つの深めタイムを単元構想や本時の流れに組み込むことによって、個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた授業づくりを行うことができた。
奈良	奈良県立添上高等学校	人文探求コースにおける探究活動について ～主体的に考え、行動する生徒の育成を目指して～	令和5年12月12日に探究的な学びに関する実践活動として、自らの探求活動をより深化・発展させるために、フィールドワークやバズセッションなどの探求活動を通じて、課題設定能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力の向上を目的に実施。奈良教育大学の先生や学生と共働活動をし、普段とは異なる環境での探求活動の実践により、今後の学習活動へのモチベーションを高め、より深い学びへと繋げることを目指した。 フィールドワークでは、東大寺、奈良町、春日山の各コースに分かれ、東大寺をはじめとする1300年以上の歴史遺産が、なぜ今なお現存するのか。元興寺を中心とした門前町がなぜ発展し、そのコミュニティがいかに形成されてきたのか。春日大社の聖域として守られてきた春日山の由来と現状と課題など、SDGsの観点から、課題の抽出や未来に向けてその解決方法を探求。グループワークでまとめた内容をプレゼンテーションし、大学教員からの講評や意見交換を実施した。
奈良	宇陀市立榛原中学校	インクルーシブ教育システムの構築に関する実践研究 ～必要な子どもに必要な支援と合理的配慮の提供を～	＜本研究の成果＞ ・学校として、特別支援教育の深化充実のための体制を整え、学校環境の整備や日々の授業、課題等の提出物やテスト作成において、支援の必要な生徒が在籍していることを前提とした、合理的配慮を行うことができた。 ・入級も通級もしていないが発達特性のある生徒や、不登校傾向の生徒に対しても、必要な支援を提供し、「個別最適な学び」を提供する体制が整いつつある。 ・特別支援教育は特別支援学級担当だけのものではなく、教師一人一人に「特別支援教育の担い手である」という意識が芽生えつつある。 ＜本研究の課題＞ ・学校長のリーダーシップのもと、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推し進めていければと考えるが、様々な意見があり、教職員の意思統一を図ることに課題がある。
広島	広島市立牛田小学校	心ときめく学校へのアプローチ ～児童一人一人が主役となって学び、教員が「働きがい」を感じられる学校に～	成果 ・教員の授業力が向上することで、児童が意欲的に学習に向かい、児童の活躍する機会が増えた。また、児童のアイデアが生かされた創造的教育活動を行うことができた。 ・教職員の連携や絆が深まり、教職員がよりよい教育活動を企画し、積極的に校務運営を行うなど、教職員が「働きがい」を実感する学校風土が構築された。 ・広島市立学校の学校関係者等が多数来校し、本校の充実した環境整備や学校体制を参考にしている。 課題 ・社会情勢に応じて、教職員が学び続ける姿勢を醸成していくことが求められる。教職員の入れ替わりが多くある中、現在の学校風土を保っていくこと、新たな教育活動を積み重ねていくことの難しさを実感している。

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
広島	熊野町立熊野第四小学校	主体的に・協働的に学び、共に高め合う児童の育成 ～共生の視点を基盤にした課題発見解決型の体育授業でのリフレクションタイムの活用を通して～	<p>成果と課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から取り組んだRTに対して、全教職員が真摯に取り組み、RTの積み重ねをつくることができた。(来年度の県大会に繋がる) ・視点(手法・発達段階・場面設定)を設けることで、それぞれの学年に合ったRTを開発することに繋がった。 ・授業の中でRTを取り入れることで、児童の中でも「振り返りを充実させよう」とする意識が芽生えてきた。 ・RTを中心とした授業づくりに取り組み、発問の質や教師の働きかけなど授業力向上に繋げることができた。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体研やブロック研でRTを実践する中で、RTへの理解の差を感じた。誰でも取り組みやすいように、分かりやすく定義を示す必要がある。 ・RTの領域によって難しさがあった。(ボール運動・跳び箱運動・縄跳び運動など) ・RTを理論研修で理解していくが、実践していくときに難しさがあった。 ・体育科授業づくり全体の課題として、学年を越えた縦の系統を意識した指導をしていく必要がある。 <p>(3) 来年度に向けて(課題を受けて・・・)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RTの定義を今年度中に示し、分かりやすいものとしておく。 ・4月に行う理論研修でRTを中心とした授業を映像で提案し、全教職員うがイメージをもてるようにする。 ・各単元の授業を構想していく前に、前年度の担任からどこまで指導したのか引継ぎを行うようにする。
山口	下関市立一の宮小学校	「自ら学ぶ」子どもの育成 ～見通しと振り返りを重視した授業実践を核とした取組を通して～	<p>■主要な研究成果</p> <p>山口県学力定着状況確認問題(令和5年10月実施)の結果を県平均と比較すると、6年の国語は1.7%、算数は11.0%上回り、5年の国語は1.7%下回り、算数は0.4%上回った。各問題の結果から、基礎的・基本的な知識・技能については定着を図ることができていると考える。また、児童質問紙の「学習したことを振り返り、次の学習につなげているか。」「授業では自分で考え、自分から取り組んでいるか。」という質問についても、5・6年ともに肯定的回答率が県平均を上回り、子どもたちの「自ら学ぶ」という意識について高まりが見られる。</p>
福岡	遠賀町立広渡小学校	考えを持ち、表現することができる児童を育成する国語科「書くこと」における学習指導の在り方 ～「思考の方法」の設定とICTの活用を通して～	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の実態把握、本時のねらいを明確にし、児童のつまずきを予測する等の手立てを考え、各学習段階で「思考の方法」(比較・関係づけ)を取り入れた授業展開を継続して行ったことは、考えを持ち、文や文章を書く上で有効であった。 ○ 「個別最適な学び」を充実させるために学習支援アプリのテキスト機能を活用することは、「思考の方法」(比較や関係付け)を働かせて、自分の力で過不足を修正し書き進めることができる上で有効であった。 ○ 「協働的な学び」を充実させるために、個で考えた考えを、学習支援アプリの共有機能を活用して、全員で共有したり焦点化して示したりすることは、友達と自分の考えの違いに気付いたり分類・整理したりして、自分の考えを深めたり広めたりする上で有効であった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「課題解決」段階で、考えを吟味し、再構築等ができるように、「思考の方法」(比較や関係づけ)を取り入れた考える場面の手立ての在り方について、整理し改善する必要がある。
福岡	行橋市立仲津小学校	希望や目標をもち、自己実現に向けて主体的に取り組もうとする児童の育成 ～学級活動(3)を中核とした学習プログラムの実践を通して～	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の目標を立て、実現への方法を考える児童、自分の目標に向かって努力する児童、こんな自分になりたいという思いをもつことのできる児童が年々増えてきている。(自己実現に向けた主体性が育ってきた。) ・キャリアプランニング能力の育成に重点を置き、学級活動(3)を中核とした学習プログラムを設定することで、児童の意欲が持続させながらねらいに向かわせることが出来た。 ・話し合い時に思考ツールや視点の提示などの有効な手立てが明らかになったことで、他教科・領域でも活用する機会が増加した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習プログラムの実践の系統性の整理。 ・ねらいとする基礎的・汎用的能力を広げた、新たな学習プログラムの開発。

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
長崎	長崎市立外海黒崎小学校	ふるさとを愛する教育課程を通じた主体的・対話的で深い学びの育成 ～生活科・総合的な学習の時間を柱として～	【主要な研究成果】 ○ 地域の住民・団体・事業所を講師として招き、多様な交流体験を通して、自分が育ったまちやひとに愛着がもてるような学習活動を全学年で行ったことで、学校評価(児童・保護者・教職員)、「伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている」の項目で、三者とも肯定的評価が100%だった。また、「長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである」(児童)の項目でも、肯定的評価が100%だった。 ○ 2月開催の学習発表会で、児童は、生活科・総合で学習した成果を保護者・地域の方に披露した。自分たちでセリフを話し合ったり、スライドの表現を工夫したりして分かりやすく伝えることができた。主体的に学習に臨み、対話をしながら思考・判断・表現の力を高めることができた。 ● ふるさと教育を通して学力向上にどうつなげていくかが課題。
長崎	長崎市立日見中学校	平和で豊かな社会を創る人材育成を目指して ～高校入試面接でのパフォーマンスを頂点にした、表現力の育成～	主要な研究成果 ・表現力育成の意義を、「将来の地球から戦争をなくし、平和な社会を維持してみんなで幸せに暮らすため」という共通の認識を持つことができた。 ・「表現力育成のための評価表」を作成・活用することで、指導内容を共有し、誰でも指導できるツールにすることができた。 ・入試面接の指導が、以下の理由により、生徒の心の成長につながるようになった。 1 生徒がこれまでに培ってきた知識や技能を基に、自己の資質・能力をどこまで広げたかを自分自身が理解することができる。 2 高校進学後も、またその先も自分を生かす決意やその方策等を他者に効果的に伝える力を習得できる。 ・本稿の内容に沿って面接指導を行った結果、今年度は県立高のプレゼンテーション試験において、4名の受験者中、3名合格させていただいた。(1名は学力検査で合格。)少ない合格枠に小規模校からこれだけ合格させていただいたのは、嬉しい驚きであった。
長崎	南島原市立口之津中学校	学校の教育活動全体で行うキャリア教育の推進について ～生徒が持つ資質・能力を最大限に伸ばす教育活動の提案～	<主要な研究成果> 今回の研究や実践の成果を、以下のとおりにとまとめた。 ○学校として、生徒のキャリア形成を支援・指導するためのさまざまな具体的な手立てを設定し、既存の教科授業や特別活動をはじめ、生徒の自主的な活動を関連付けた教育活動全体で行うキャリア教育の一例を構築することができた。 ○生徒は、進路選択を支援する機会や情報を得るための場を設けたことにより、主体性をもって自身のキャリア形成の方向性を考え、その実現のための自らの資質・能力を高めていこうとする意識と実践力を高めることができた。 ○教師は、意識調査の結果やキャリア・マネジメントシートの記載内容等から、生徒の「キャリア形成の方向性(抱く夢や目標等)」や現状を把握し、直接的なキャリア教育はもとより既存の受け持ち教科を通じて、個々の生徒のキャリア形成に資する視点と実践力をより確かなものにする改革の緒に就くことができた。
熊本	錦町立西小学校	学びに専心できる学校づくりの推進 ～教職員のやりがいの維持・向上を目指して～	研究主題の主要な研究成果 ○ 教職員対象の意識調査の結果、「やりがいや充実感を感じながら働くことができたか」という設問について、90%を超える教職員から肯定的な評価が得られた。 ○ 主観的・感覚的な評定尺度による「職場満足度」について、令和3年9月と令和5年3月との比較で向上が見られた。 ○ 全校児童対象のいじめに関するアンケートの結果、令和3年度と令和4年度との比較で、「いじめられたことがある」と回答した児童が半数以下に減った。また、いじめられた場合に「誰にも相談していない」と回答した児童も減少した。生徒指導部を中心とした組織的な取組によるところが大きい。本研究での取組によって、教職員が児童と向き合う時間や心の余裕が生み出され、相談できる態勢や雰囲気改善に貢献できていると考えられる。
熊本	和水町立三加和小学校	「生きる力」を身につけ、なごみの未来を創る児童の育成 ～夢に向かって知恵いっぱい笑顔いっぱい元気いっぱいに育つ三加和っ子～	1 基礎学力の向上を目指し、算数科を中心に授業改善に取り組み、「みかわ(みとおす かかわる わかる)の学習過程」や「みかわの振り返りの視点」を共通実践することによって、児童を主体とする授業が実践できるようになった。 2 縦割り班の活動や中学校の乗り入れ授業を実施することにより、児童同士のつながり、児童生徒のつながり、教師同士のつながりが深まり、「9年間を通して育つ」という小中一貫教育のよさを児童も教師も自覚することができた。 3 地域のひと・もの・ことを生かした教育活動を計画的に実施したことにより、たくさんの人と関わることができ、自分のよさや地域のよさを再発見する児童がふえた。

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
宮崎	西都市立三納小中学校	短期的PDCAサイクルによる学力のスパイラル・アップ ～学習の質の改善と量の増加を図る取組のスクラップアンドビルドをとおして～	学力向上に係るリソースが年度をまたいで大きく変化することを考慮し、年度初めに設定する学力向上プランを、2～3カ月の短い期間でのPDCAサイクル(短期的PDCAサイクル)により見直していきながら、生徒の学力向上をよりよく図ることを試みた。学力向上プランの改善においては、新たな取組を加える(build)だけでなく、効果がない、または必要がないと考えられる取組については積極的に破棄(scrap)した。本研究をとおして、短期的PDCAサイクルにより、学習の質の改善と学習量の増加を図る取組をスクラップアンドビルドしていくことで、これまでよりも学力向上を図れることが明らかとなった。
鹿児島	鹿児島市立西谷山小学校	良く考え、深く考える子どもの育成 ～学年の実態に即した算数科の授業実践を通して～	<p>研究主題の主要な研究成果</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 思考方法の「比較・関連付け」を中心として活用し、「想起する、考える、話し合う」などの思考過程(＝深く考える子供の姿)を明確にすることができた。 ○ 学習内容と思考方法を構造化して整理することは、授業の教材研究となる。 ◎ 上記の教師側の手立てが明確になったことで、教科内容に応じた子供の深く考える姿を価値付けたり適切な支援を行ったりでき、深く考える子供の姿が多く見られた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西谷山小学校の実態に合った思考方法モデルの見直しを図る必要がある。 ・ GIGAスクール構想を踏まえ、深く考える子供の育成とICT活用による指導方法の可能性を探り、授業に具体化していく必要がある。
鹿児島	鹿児島市立東昌小学校	主体的に学び、考えを深め合う子どもの育成 ～子どもが主役の授業づくりを目指して～	<p>研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が主役の授業(一斉授業)から子ども主体の授業(協働的な学び)へと変わりつつある。 ・ 授業参観では、子どもの姿から授業を観ることができるようになり、子どもの姿を観る力がついてきていると感じる。 <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一斉授業から協働的な学びへ移すことのできている職員が増えてきている反面、どうしても一斉授業から抜け出せない職員がいる。ベクトルをそろえて指導に当たりたい。 ・ 教科書を教えるというスタンスではなく、子どもたちの思考を促すために、どのように教え、どのような力をつけるのかというスタンスで授業を組み立てたい。
鹿児島	鹿児島市立吉田南中学校	未来の創りに必要な資質・能力と育成する授業デザイン ～「ジリツした学習者」としての生徒の育成を目指して～	<p>主要な研究成果と課題</p> <p>個別最適な学びと協働的な学びの更なる充実に関する今年度の研究により、以下のような成果をあげることができたと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員研修のより綿密かつ組織的な体制が整い、職員研修を充実させることができた。リフレクションシートを利用した授業の組み立てと生徒の成果を見取るスタイルは、本校の授業の基本となってきた。 ・ 生徒が自ら学習を進め、他者との対話を通してよりよい解決策や答えを導き出そうとする姿が見取れた。 <p>課題としては、アンケート結果より、生徒が「学び方がわからない・つかめていない」という実態があり、来年度の研究テーマを「生徒の『学び方の選択』と『学び方の振り返り』をどのように見取るか」に焦点化することにした。</p>

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
鹿児島	三島村立三島片泊学園	確かな学力を身に付けさせるための個に徹した支援の研究 ～「わかる・できる」を支えるUD環境の構築とUD授業の展開～	【主要な研究成果】 1 教研式NRT(標準学力検査)の分析を詳細に行うことにより、生徒の実態把握がより正確になり、個に徹した指導計画を立案し、授業展開に生かすことができた。 2 UD環境を整え、UD授業を展開することで、つまづきが解消される場面が見られ、「わかる・できる」手立てとなった。 3 チェックリストや振り返りシート等、教師も児童生徒も「見える化」を図ることで、現状を省みることができた。 4 教職員授業チェック表より、授業における発問の工夫や指示の明確化、課題の多様化の値が上昇し、授業改善が行われた。 5 研究授業を通して、UD授業への意識が高まった。
鹿児島	曾於市立光神小学校	読みを楽しむ子どもを育てる国語科指導の在り方 ～「読む力」の向上を目指して～	主要な研究成果 ○ 成果 ・「振り返りカード」で、自分自身の学習を振り返り、見方・考え方を高めることができ、他の教科でも活用するなど学習効果を波及させることができた。 ・ICTを活用することで、学習する箇所を焦点化したり、考えの共有や交流を図ったりすることができ、読みを楽しむ指導を充実させることができた。また、繰り返し指導することで抵抗なく自信をもって表現できるようになった。 ● 課題 ・型にはまった表現から脱却できないことが見受けられる。課題を児童同士の学び合いで進めていくことができたり、「ジャンプの課題」に取り組んだりできるようさらに授業改善や学び合いの質を高め、児童一人一人に「豊かな学び」を実現させたい。
鹿児島	霧島市立陵南小学校	進んで自分の意見を持ち、互いに分かりやすく伝え合う児童の育成 ～道徳科における主体的・対話的で深い学びをめざして～	1 成果 (1) 基金による購入物(映写対応ホワイトボード)の成果 ・これまで、本校では黒板にスクリーンを貼って授業を行っていた。映写対応ホワイトボードを基金により購入することで、板書を広くより自由に使うことができるようになった。 ・板書を広く使えるようになったため、児童の思考が見える形で表すことができるようになり、道徳の授業が分かりやすくなった。 ・本校では、道徳の授業において事前アンケートをとり、授業の導入場面で「テキストマイニング」や表などにして示していた。映写用ホワイトボードを使うことで、テキストマイニング等が見やすくなり、児童の価値の自覚化につながった。 ・対話活動においても、複数児童の意見を映写対応ホワイトボードに映すことで、多数な意見を知り、思考を深めさせることができた。 (2) 道徳科の研究における成果 ・導入のスリム化を図ることで、交流の時間を確保し、葛藤からよりよい選択までの流れができた。 ・交流タイムによる対話活動を行うことでねらいとする価値に対して多様な考え方を持つことができた。 ・振り返りシートを使って、活動の振り返りを行うことで、自分事として自己の生き方について考えることができた。 ・交流タイムでの様々方法が実践できた。今後も効果的な交流方法を試していきたい。 ・毎時間の児童の振り返りを評価に生かし、保護者に伝えることができた。 2 課題 ・中心発問や揺さぶりの発問について研究を深め、「発問カード」の見直し、改善が必要である。 ・「発問カード」の活用度合いが、担任によって差があるため、学校全体で再確認して進める必要がある。 ・考えを深めるための話合いの仕方や交流タイムで、もっと自分事として考えられるように、日常生活との関連を図り、道徳の生活化につながる手立ての研究が必要である。 ・カリキュラムマネジメントの視点を取り入れ、道徳科と他教科が有機的な関連が図れるように指導計画の見直しが必要である。 ・積み重ねた児童の毎時間の振り返りをより効果的に評価する方法を研究する必要がある。
沖縄	糸満市立高嶺中学校	自己肯定感を育み、汎用的な資質・能力を身に付けた生徒の育成 ～PBL学習と探求学習を通して～	①課題解決型学習(Project Based Learning)のスキルを活かして教科横断型カリキュラムマネジメントで知識統合の深い学びにつなげることができた。 ②日々の教科学習やキャリア教育を根底とした教育活動に取り組むことで「何のために学習をするのか」といった目的意識を育む実践づくりができた。 ③アウトプットの発表の場に、教師以外の企業の方、多数の大人の前で発表することで、賞賛され達成感を感じ自己肯定感に繋げることができた。 ④「汎用的な資質・能力ルーブリック評価」を掲示し視覚化を図るなど、身に付けたい力の意識づくりに繋がった。 ⑤「基礎的・汎用的能力アンケート」を全生徒で実施し、4つの能力の変容(良い方向)を見とることができた。

令和5年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
沖縄	那覇市立城東小学校	<p>学び合い、高め合う授業づくり ～国語科の文学的な文章における「読み、書き」関連の言語活動を通して～</p>	<p>【主要な研究成果】 前年度から「文学的な文章」における「読み」「書き」関連の指導を工夫した「言語活動」を展開させることで、感じたり想像したりしたことを言葉にする力を高める研究を継続してきた。 成果として以下の4つが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①交流活動を取り入れた児童同士の学び合いの授業を実践することで、従来の授業パターンの見直しにつながった。 ②児童は、学習のゴールに向かって自分の考えを友達に納得してもらえるように説明することができるようになってきた。 ③文章を基に想像したり、体験と結びつけたりして理由を書くことができるようになった子も増えてきた。 ④授業実践を通して様々な手立てを工夫することによって児童の主体的、対話的な学び、ひいては研究主題である「学び合い、高め合う授業づくり」につながった。

令和5年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
北海道	旭川市立旭川第五小学校	互いのよさを認め合い自分らしさを発揮できる児童生徒の育成 ～教頭としての児童生徒への関り、教頭の関り～	<p>◎成果1:校長の意を体し、教頭として、職員全員に経営参画意識の向上を促すため、自ら積極的に働きかけ、ミドルリーダーを軸にチーム力を機能化させることに繋げた。 (論文内 研究(1) グランドデザインの周知に関連)</p> <p>◎成果2:日常的な授業実践の公開と学習指導案作成により、授業力向上と児童の実態把握及び担当外における児童の実態把握に繋がった。(論文内 研究(2) 個人研究実践に関連)</p> <p>○今後の展望:学習指導要領に沿った計画的、実践的授業の構築と、地域教育素材(人材)の積極的活用など、教師一人によらない授業実践が子どもにとってよりよい学習環境の提供となり、ひいては教師の働き方改革に繋がると考える。</p>
埼玉	川口市立十二月田小学校	自立的に学び続ける児童の育成 ～自己の学習を調整しながら自己決定する学びを実現して～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容と学習方法・学習環境を自己決定したことで、今までの学習を生かしたり、自分の興味を基に学習への意欲を高めたりする様子が見られた。 ・段階的に学習過程を設定したことで、自己決定したことを最後まで貫き通すだけではなく、自らの学習状況を把握し、柔軟に自己決定する姿が見られた。 ・児童が自己決定する学習を積み重ねたことで、自己の見つけた課題に対して、自らの学習状況を把握しながら、「何を(学習内容)」「どこで(学習環境)」「どのように(学習方法)」を考えながら学ぶという、自律的に学び続ける素地ができた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どのように活用するか」まで考えることで学習の目的が明らかになり、より自律的に学び続ける児童が育成できると考えられる。 ・小学校だけではなく、中学校・高等学校を通して、系統的かつ継続的に実践していくことが、予測困難な時代を生きる子供たちの大きな力となると確信している。
神奈川	三浦市立三崎小学校	漢字の学び方を意識した読み書き指導と子どもの変容 ～通級指導教室と在籍学級との連携の充実を目指して～	<p>(研究の成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A児は、2、3年生で習う漢字を読めるようになったので、4年生以上で習う熟語について、意味を表すイラストと対応させながら覚える学習を継続した。「広告」「救助」「暴圧」などの複雑で抽象度の高い漢字を、イラストを手がかりにして少しずつ覚えていった。 ・A児は、在籍級では、わからないところを尋ねたり、思ったことを堂々と発言したりするなど、内面的な変化が継続的に見られた。クラスメイトとの関係も良好な状態を保っている。 ・中学校、医療との連携の充実は、依然として難しい状況にあると言える。小学校の教員が中学校や医療と「連携する」意識を持って実践を行い、連携先に働き続けていくことが大切である。本校の管理職、本市教育委員会の指導主事とともに力を合わせ、連携の充実を目指していきたい。
新潟	新潟市立沼垂小学校	「動きを試す場」と児童の運動能力の向上の関係性についての研究 ～小学校高学年ボール運動ネット型の実践を中心として～	<p>○ 本研究における主要な研究成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校高学年におけるゴール型、ネット型の2つの実践を通して、ボール運動領域における「動きを試す場」に関する効果が示唆された。 ゴール型→チームの攻め方に焦点を当てて動きを試しやすいこと ネット型→個人の技能に焦点を当てて動きを試しやすいこと ゴール型・ネット型共通→チームや自己の課題を修正しやすく、思いを反映できること ・上記の成果を受けて、ボール運動領域における学習の流れを見直すことができた。 ゴール型→「相手より多く得点を取るためにはどう攻めると良いか」という、単元を通してチームの動きに焦点化した課題を設定して、学習を進める。 ネット型→単元前半は個人の技能に焦点を当てて学習を進める。そして、単元後半に向けて、「相手より多く得点を取るためにはどう攻めると良いか」という、チームの動きに焦点化された課題を設定するよう単元を構成する。

令和5年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
新潟	胎内市立きのと小学校	相手意識を高め自信をもって話す児童の育成 ～目的意識のある活動の設定・ルーブリック・タブレットの活用を通して～	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 回数を重ねるごとにルーブリックの評価が向上したことから、パフォーマンス力が向上したことが分かった。 自信をもって発表をすることができるようになった児童が増えていることが分かった。 自分たちの姿を客観視するためのタブレットのカメラ機能、そしてその姿を繰り返し自己評価できるルーブリックはよりよい発表を作り上げていくことに有効であった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価は人によって評価の度合いは変わってくる。よって、他者評価も含め、評価の仕方については検討が必要であった。 パフォーマンスに焦点を当てていたため、外国語の言語材料や発表内容については決まった言葉だけの発表で終わり、深めることができなかった。
新潟	新潟市立内野中学校	内発的な動機を呼び覚ますプロジェクト型学習(PBL)から育む 資質・能力 ～学びの場を広げ、当事者意識を高めようとする生徒の育成～	<p>「主要な研究成果」</p> <ul style="list-style-type: none"> 内発的な動機を呼び覚ます、主体的に学びに取り組む態度「学びのエンゲージメント」を向上させるために、課題設定で必要な「困っているひと、もの、こと」を見い出す力の育成に注力しながら、次年度のカリキュラム構成を検討している。 「開かれた探求」に向けて生徒自身が、「自分の中の『違和感』に気付く」ことを支援すべく、中大連携を密にして検討を重ねている日々である。 本校の校舎の物理的な大きさ、あるいは生徒数の多さから学びの時間、場所の確保が非常に難しく、生徒にとって「なぜ、今これを学ぶのか？」という必要性を感じられないまま突然出会わせている傾向を改善すべく、ストーリーの質を高めながら「なぜ、いま探求をするのか？」を事前に生徒に問いながら出会わせるために、年間を通して導入部分を工夫したカリキュラムの調整を弾力的に図っている。
長野	上田市立豊殿小学校	知的障害児童におけるマルチメディアデージー教材の有効性 について	<p><主要な研究成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○GIGAスクール構想に伴う新たな学びを創造するツールとしてのICT活用により、読むことに困難を持つ知的障害児童が、読み物教材を読むことができるようになるための個別最適化を実現することができた。 ○読むことに困難を持つ知的障害児童が、音声教材のひとつであるマルチメディアデージー教材を利用することによって、児童の読むことへの意欲と学習への能動的かつ主体的な学びを育むことにつながった。 ○マルチメディアデージー教材が、読むことに困難を持つ児童が抱える読むことへのストレスを軽減する可能性を見出した。
長野	長野市立南部小学校	学校周辺の地上画像を取り入れた天体シミュレーションの視聴 による星の日周運動の理解向上	<p>本研究では、小学校天体学習の問題を解決するため、安価な編集ソフトウェアを使用し作成した学校周辺の地上画像を既存の天体シミュレーションに取り入れて視聴する授業実践を行った。授業実践の結果、子どもの学習カードや授業中の会話の様子から、既知の地上画像を取り入れた天体シミュレーションを視聴することで、星の動きや位置、方位の認識を補い星の日周運動の理解を向上させることが示唆された。</p>

令和5年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
岐阜	岐阜県立吉城高等学校	「歴史教育の階層モデル」の提起と「歴史研究のシミュレーション」教材の開発	<p>「主要な研究成果」 昨年11月、開発教材「雪谷健太の謎」を使って、進路決定済みの3年生10名を対象に初めて授業を実施しました。生徒全員が「ああでもない、こうかな？」などと探偵気取りで喜んで取り組みました。しかし、昭和40年代という時代設定が高校生には難しかったようです。たとえば、当時の田舎にはスマホは存在せずダイヤル電話が普及し始めた頃で、ラジオや新聞が主な情報源でした、というような若者世代への配慮が必須でした。また、事故現場周辺のもっと詳細な地図(バス停の位置や英伝大学・下宿先などの距離感が分かるマップ)を用意すべきと指摘されました。今後は、これらの意見を参考に教材改良に努め、生徒が「歴史そのものの理解」を深めることができるように完成度を高めていきたいと存じます。</p>

令和5年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
静岡	三島市立山田小学校	小学校第5学年の生命区分における生態学の追及 ～オイカワを扱った動物物語の編集～	<p>研究の成果:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三島市の清流に生息するオイカワが神奈川県立生命の星・地球博物館を訪問して普通種であることを確信し、山梨県立富士湧水の里水族館を訪問して雨季と夏季の難しい飼育方法を見いだした。 ・動物文学である「イソップ寓話」や「吾輩は猫である」「博物誌」「ビーグル号航海記」「フェアブル昆虫記」などを検証し、児童が編集するのに相応しい手本の著書として「シートン動物記」を選択した。 ・児童が3台の水槽内のオイカワ(雄1匹と雌1匹、小型6匹、大型4匹と小型4匹)について、雄雌の違い、ひれの位置、走性などの生態を洞察的に観察し、オイカワを主人公に見立てて動物物語を編集した。ある児童は雄がよく飛び跳ねる行動から川に出て冒険する物語を、ある児童は6匹が餌を食べたり方向を変えたりする際の集団行動の物語を、ある児童は政治を背景にした物語など、児童一人一人が独自の動物物語を編集した。
兵庫	川西市立清和台中学校	ゲストティーチャーを活用した授業づくりの実践的取り組み ～教師・生徒の学びに新たな視点を入れ、深い学びを実現～	<p>「主要な研究成果」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学1、2年生を対象とした「10代の脳と上手につきあう方法を学ぶ」ためのキャリア教育講演会を、発達心理学が専門の大学教員をゲストティーチャーに招いて開催。 ・10代の時期の特徴を知ることや、学力以外の場面で必要となってくる、「目標を達成する力」「他人とつきあう力」「感情を調整する力」などの「非認知能力」の大切さについて学ぶ。 ・勉強することの意味や、他人とどうしても比較してしまうことについて、代表生徒から大学教員に、直接質問を行う機会を設けたことで、生徒の思いを引き出し、他の生徒と思いを共有することが実現。 ・この講演会を通じて、日頃、10代と関わっている中学校教員にとっても、10代の特性を知る貴重な機会にもなった。
鳥取	鳥取県立鳥取工業高等学校	地域の未来を賭けた「鳥工版STEAM教育」の実践 ～そうすれば「STEAM教育」はうまくいくのか～	<p>DXの推進、脱炭素関連・宇宙・航空などの次世代成長分野の進展など時代の変革期にあって、ものづくり人材を育成する本校では「鳥工版STEAM教育」(ある物事やテーマについて、複数の学問領域を統合しながら科学者のように探究し、最終的にアーティストのように見ごたえのある作品を創り上げる活動)に取り組んだ。「オリジナル小説動画の制作(文学×地理学・生物学など×芸術×ICT)」「虹の色から始める異文化理解(物理×美術史×科学史×国際文化×ICT)」「ビジネスプランの企画・提案(経営学×メディア学×環境学×家庭科×ICT)」などを通じて、様々なもの、様々な分野に目を向け、試行錯誤しながら作品づくりを楽しみ、技術の向上を楽しみ、互いに助け合う喜びを経験した。</p>
山口	山口県立山口高等学校	ICTを活用した業務改善とネット依存への保健室の取組 ～ICT教育のメリットとデメリットへの対応～	<p>ICTを活用した保健室業務の改善を行った結果、生徒に寄り添い、傾聴する時間を捻出でき、さらに、ワークライフバランスを意識した働き方もできたことは非常に有益であった。</p> <p>助成金により、生徒が安心・安全に過ごせる学校環境の整備に努めるため、整理収納アドバイザー1級(令和5年度)や防災士(令和2年度)を取得した。</p> <p>その視点から、本校保健室のアセスメントを行うと①書棚等の背の高い備品に防災対策をしていない。②不要な物品や文書が多い。③害虫の住処となる段ボールによる収納等の課題が挙げられる。</p> <p>大地震の際には、背の高い備品が倒壊する恐れがあり、日頃から保健室の整理整頓と防災を心がける必要がある。今後はそれらの課題を解決していきたい。</p>

令和5年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
徳島	徳島県立名西高等学校	AI時代の教育改革 ～AIが切り拓く、だれもが自由に学べる教育を目指して～	<p>【主要な研究成果】</p> <p>学習指導要領の改訂により、統計教育の充実が求められている。データを活用し、客観的かつ論理的に物事を考え、判断する能力の醸成は社会に出て仕事をする上でも非常に重要である。一方、高校で専門的な指導をすることは難しい。そこで、生成AI「ChatGPT」のプラグイン「Noteable」を活用し、誰もがAIとの対話を通じて学べる環境づくりを行なった。生徒のタブレット端末からChatGPTを使い、数学Iの授業や探究活動に活用した。これまでは非常に困難であったが、ChatGPTを活用することにより、初学者の生徒であっても対話を通して自然と統計学の知識に触れ、データ分析ができるようになった。多くの生徒がデータ分析に興味をもつようになり、県内外のコンテストに応募するなど学びに対する意欲の向上が見られるようになった。</p>
宮崎	日南市立大堂津小学校	学校組織における事務職員の役割について ～働き方改革推進リーダーとしての取組を通して～	<p>『主要な研究成果』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職員の当事者意識の向上： <ul style="list-style-type: none"> ○ HKP「働き方改革プロジェクトチーム」の意見の出しやすさは、職員の当事者意識を高めました。これは、協働的なアプローチでスピード感のある改革や教育課程の工夫を実践する組織の向上につながりました。 2. 時間に着目した改革： <ul style="list-style-type: none"> ○ 時間の観点から見通しや効率・効果を意識することで、超過勤務を45時間以内に抑え、ワーク・ライフ・バランスを実感できる組織になりました。 3. 事務職員と教職員の連携 <ul style="list-style-type: none"> ○ OJTプログラムは、事務職員と教職員の連携を充実させ、相談しやすい環境を作りました。また、ICTの導入により職務の充実と業務効率化が進みました。 4. 課題と今後の展望： <ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の異動に対応できる組織体制の保持と継承が必要である。 ○ 管理職と事務職員の連携のあり方について、他の学校と共有しながら働き方改革を推進することが重要です。

令和5年度 教育研究助成応募【団体研究】

都道府県	学校名・団体	研究主題	主要な研究成果
神奈川	神奈川県公立中学校教育研究会	生きる力を育む教育課程の研究	<p>成果と課題:</p> <p>「信頼される学習評価」の実現に向けた各地区における取組や実施状況、課題について調査を行い、組織的な取組、現状と課題を明らかにすることができた。また、各校における様々な工夫や参考となる取組を共有することもできた。</p> <p>授業研究会や研修会等を通して信頼性・妥当性のある評価になるように努めていることがわかったが、「主体的に学習する態度」の評価については、具体的な評価方法を共有する時間がとれない、それぞれの教職員の思いや考え方が異なり共通理解まで行き着かない、具体的な資料が不足している、などの現状も明らかになった。</p> <p>教育委員会からの具体的な資料・情報の提供を求める声も多く、今後は一つの学校だけではなく、全県の中学校が連携協力して問題解決にあたることが「信頼される学習評価の実現」へとつながっていく。今後も学習評価については研究を進めていかなければならない。</p>
新潟	長岡体育サークル	児童一人一人が意欲的に学ぶための体育授業の在り方～ボールを持たないときの動きに着目した実践から～	<p>「児童生徒一人一人が意欲的に学ぶための体育授業の在り方」を研究主題に掲げ、2回の指導案検討会と研究授業(6学年ボール運動「ネット型」)を実施した(小中教員等31名参加)。今回は、「勝利の不確定」を保持するために対戦相手に応じてルールを調整する「アダプテーションゲーム」を取り入れた実践を基に議論し、小中の教員で研修を深めることができた。また、会員の授業づくりのベースとしていた「三・五・十・七(みごとな)授業要件」(1971)を時代に合ったものへと作り変えるために検討会を重ね、ICTの有効活用などにも触れた「令和版 みごとな授業要件」を完成させることができた。</p>
新潟	新潟県生活科・総合的学習研究会	これからの未来を創る力を育む生活科・総合的学習(探求)の時間 ～一人一人が響き合い、学び、創り出す「くらし・社会・未来」～	<p>1 成果</p> <p>研究主題の解明のため、小学校、中学校、高等学校の各学校種における実践を基に、生活科や総合的な学習(探究)の時間における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の在り方について考察した結果、現時点では、実践上の工夫として次の点が見えてきた。</p> <p>(1) 個別最適な学びの促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者の興味・関心から出発し、学びの文脈や進捗状況に基づいて、学習者が課題や方法を調整できるように単元計画をデザインしていること。 <p>(2) 協働的な学びの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトベースの学習: 学習者同士がチームを組んで実際の課題やプロジェクトに取り組むようにデザインしていること。 ・グループワークとディスカッション: 学習者同士が、必要感をもってアイデアを交換し、議論する場を適切に設けていること。 <p>(3) 見取り(評価)とフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形成評価: 定期的な評価を通じて学習者の資質・能力の高まりや進捗を確認し、必要に応じて単元計画を修正していること。 <p>2 課題</p> <p>今後は、これらのアプローチを組み合わせ、目指す姿である「多様な個性をもつ子どもたちの多様な学びが適切に組織化された状態」すなわち、響き合い(orchestration)の具現を促進させていくことが課題である。</p> <p>なお、最終的な研究成果は、6月22日(土)、23日(日)に開催される、「日本生活科・総合的学習教育学会 第33回全国大会(新潟大会)」で報告する予定である。</p>
新潟	魚沼市中学校教育研究会	教科化とコロナ禍に対応した「特別の教科道徳」(道徳科)の実践研究とその考察 ～「質の高い多様な指導方法」による授業改善を通して～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議(H28.7.22)で「質の高い多様な指導方法」が3つ列挙された。その中の一つである「道徳的行為に関する体験的な学習」に対応する「役割演技」に焦点を当てて実践に臨んだ。 ○コロナ禍にあつてのリモート授業の導入による効果的な指導、その他ICTに関するスキルアップが十分になされた。 ○三つに大別される指導方法であるが、どれかをやればよいということではなく、すべての指導方法を1単位時間で使う考え方が深められた。 ○「役割演技」という「動作化」の違いから始まったが、最終的には「演者選定」からの役割演技の意義を考察することとなり、質の高い指導方法の意味を深めることができた。

令和5年度 教育研究助成応募【団体研究】

都道府県	学校名・団体	研究主題	主要な研究成果
新潟	白南中学校学校運営研究会	行政、地域、NPOと学校が協働した防災教育の推進 ～コミュニティ・スクールによって、地域総がかりで子どもを育てる教育活動の推進～	<ul style="list-style-type: none"> ○防災教室の計画段階から行政、NPO、地域防災士会に参画してもらい、学習計画の練り上げと明確な役割分担ができた。 ○全体指導をNPO、グループワークでは、防災士13名がサポートに入り、専門的、多角的で、豊かな学びを得ることができた。 ○地域住民の参加も多数あり、生徒とともに地域防災を考える機会になった。 ○行政、地域、NPOそれぞれのモチベーションが向上し指導の充実が見られるとともに生徒の地域防災への貢献意識の向上が見られる。
愛知	西春日井地区小中学校教務主任会	資質・能力の育成を図る個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して ～ICTによる効果的な活用方法の検証を通して～	<p>【主要な研究成果】</p> <p>地区内各小中学校の教務主任がICTを効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る実践に取り組み、実践をまとめ、効果的な活用方法を検証することで、児童生徒の資質・能力の育成を目指した。</p> <p>各校での実践を通して、ICTを効果的に活用することで、児童生徒に興味・関心をもたせたり自信をつけたりすることができ、学習意欲を高めることにつながった。また、習熟度合わせた学習が可能になったり、技術が向上したりするなど、深い学びを実現することにつながり、学習の質を高めることもできた。今後は、成果と課題を各校の教員に伝え、地区全体に広げることで、更なる児童生徒の資質・能力の育成を図っていきたい。</p>
福岡	福岡県京築地区中学校国語教育研究会	社会生活に生きて働く言葉の力を育む国語科学習指導の創造 ～目的や場面に応じた語彙を豊かにする活動を通して～	<p>【研究の成果(○)および今後の課題(●)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の学習計画を立てる際、教師が身に付けさせたい力とともに身に付けさせたい言葉を明確にした計画を立てるようになった。 ○ 学習活動の中で、言葉を吟味する活動や吟味した言葉を活用する活動を設定したことで、生徒が言葉にこだわり、使う姿が見られるようになった。 ○ 特に文学的文章における登場人物の心情を読み取る学習では、生徒は多様な語彙や修飾する言葉を用いて表現しており、読みの深まりが感じられた。 ● 生徒に語彙が身に付いたかどうかをどのように見取るか、評価の方法を検討する必要がある。